屋久島(宮之浦岳)&開聞岳山行報告

【山 行 日】 2014年 11月 12(水)~16(日)

【集 合】 野木町島田宅 AM 5:20

【費 用】 交通費&宿泊代: 90,800円

【メンバー】 CL:鈴木、岩渕、大西、島田、

関、島田ユ

11月12日(水) 曇り時々晴れ

羽田空港から鹿児島空港経由して屋久島へ

島田宅 5:20=羽田パーキング 6:40=羽田空港 7:00/8:15+++ 鹿児島空港 10:10/10:30=天文館 11:20



=猿川ガジュマル 16:10=杉の里 16:20

Sさんの長年の夢、屋久島の縄文杉に出会う山行が始まった。



I さんも初めての屋久島に心を弾ませる。

鹿児島空港に降り立ち、高速船乗り場までのバス に乗るが丁度良い時間のバスが無い。

仕方がなく市内行きのバスに乗り、天文館でバス を降り歩いて高速船乗り場まで行くことにする。 20分前に着いたが、昼食を食べる時間が無いの で弁当を買って高速船に乗り込む。

天気は晴れているが、かすんでいて桜島がうっす らとしか見えない。途中、指宿の町は見えたが開

聞岳や佐多岬もかすんでいた。波はやや高めと言っていたが、それほど揺れは感じなかった。

宮之浦港に予定通りに到着した。ニッポンレンタカーの人が、港の駐車場に来てくれていてレンタカーの手続きをする。手続きを済ませ、安房の宿「杉の里」へ向かった。杉の里へは3度目の宿泊となる。杉の里で宿泊の手続きをし、部屋に荷物を置いて観光に出かける。レンタカーなので自由に行動できるのでとても便利だ。前回見ごたえがあった千尋ノ滝に向かう。千尋ノ滝は花崗岩の一枚岩を落ちる落差60mの美しい滝。駐車場に車を止め、5分くらい歩いて滝展望台に行ける。

誰もいなくて我々の貸切。記念写真を撮り、岩の上に登ると下に橋が見える。展望台の右側に、滝

壺の方へ降りる階段状の道があり、入口がロープで塞 がれて立ち入り禁止になっていた。

以前はこの道を降りて、下の橋を渡り滝壺に行けたようだ。駐車所まで戻ると、お土産店の脇でサトウキビのジュースを売っていた。女性たちは揃って飲んでみたいと購入した。目の前で30cm位の

サトウキビの茎をジューサーに入れるとジュースになって出てくる。搾りたてのジュースはフレッシュで甘く皆さん大満足。ここから地元の写真家のお姉さんに教えても







らった猿川ガジュマルに行く。

宿へ帰る途中、県道から左へ数百メートル入った所に小さな看板がある。入口の駐車スペースに車を止め、細い山道を降りて原生林の中に分け入る。小沢を渡り少し行くと、太い幹から無数の気根垂れ下がる見事なガジュマルがあった。I嬢は大喜びで、スルスルスルとガジュマルの幹に駆け上った。そのあとをS嬢も登り、二人で子供にかええって楽しそう。みんなも途中まで登り記念写真。

杉の里に戻り、 風呂に入って から明日の準 備をする。夕食 は6:30から食

堂で戴く。カンパチとタイのお造りにトビウオのから揚げ等食べきれないほどの御馳走に舌鼓。地元の焼酎「三岳」が料理にとても良く合い、ついつい飲みすぎてしまう。明日は3:30起床、4:30に出発と皆さんに伝えて床に就いた。



11月13日(木) 淀川登山口から花之江河を経由、宮之浦岳に登頂し新高塚小屋へ

杉の里 4:20=淀川登山口 5:00/5:20~淀川小屋 6:20/6:50~花之江河 8:25/8:40~投石平 9:40~ 栗生岳祠 11:00/11:40~宮之浦岳 12:00~三叉路 12:25~第二展望台 13:40~新高塚小屋 14:20 朝3:30起床、まだ昨夜の焼酎が残っていた。歯を磨き、髭をそり冷たい水で顔を洗って気合を入れる。冷蔵庫と冷凍庫から食材と保冷用の氷を保冷バックに詰めザックに入れる。 ヘッドランプを出



し、ポケットに入れ忘れ物が無いか確認する。外に 出ると敏雄さんが車をスタンバイさせ待っていた。皆 のザックを車に載せ、淀川の登山口に向かう。途中、 弁当屋に寄り朝食の弁当を受け取る。

淀川登山口までの道路は、前回来た時よりも良く整備されカーブの箇所は新たに道路が出来、車線が分離されて運転しやすくなっていた。登山口に着くと、駐車場には3台しか止まっておらず、登山者もガイド

と女性の二人だけ。前回、前々回は多くの車やマイクロバスで、タクシーがUターンに苦労していたが、今回は楽に回れた。混雑を予想して出発を早くしたが、今日はもっとゆっくりでも大丈夫だったようだ。月が出ていたが風が強く、遠くから細かい水滴が飛んでくる。

ストレッチをして、予定通り出発する。ここから淀川小屋までは、いつも暗い中歩くので景色が全く分からない。岩や階段でアップダウンを繰り返しながら、ヘッドランプを頼りに淀川小屋へ向かって下って行く。1時間





ほどで小屋に着き、朝食の弁当を食べる。コロッケや焼き魚、から揚げ等が入った豪華な弁当だ。トイレを済ませ、淀川を鉄の橋で渡り登りの登山道に取りつく。尾根を登る途中で明るくなり、ヘッドランプを外した。東の空は明るく、天気は悪くないと思っていた。ところが高度を上げてくると、ガスがだんだんと濃くなり周りの山が見えなくなった。花之江河に着くと、ますますガスが濃くなり、霧雨状になって来たのでレインウェアーの上衣を着る。風が強く、時折ガスを飛ばして周りの山々が一瞬はっき

りと見える。明るくなったりガスッたりを繰り返し、明 るくなると花崗岩のオブジェが目を楽しませてくれた。 初めての二人は「屋久島の山を登れるだけで最高で す。」と嬉しそう。

黒味岳の分岐に来たが、眺望が期待できないのでパスして先に急ぐ。投石平は大きな花崗岩で眺望もよく、休憩や撮影の絶好のポイントだが風が強くここもパス。天気は良くないが、二人には花崗岩の岩場の登りが楽しそう。このあたりは、天気が良ければ、投石岳や安房岳の笹と花崗岩が織りなす、屋久島ら



しい景色が見られる場所。ここから先は、ヤクササが茂った狭い登山道を登るので、レインウェアー



のズボンをはく。タップリと水滴を付けたヤクサ サで、レイウェアーはビッショビショ。

栗生岳まで登ると風が一段と強くなり、「岳参り の祠」の岩を借りて風を避け、ラーメンを作って 昼食を食べる。

ここから一登りで宮之浦岳山頂に着く。 残念ながら山頂は霧雨と強風の中。 記念写真を撮り、わずか5分の滞在で新高塚小 屋へ向かう。

焼野三叉路を右に進み、平石まで降りると少し 風も弱くなり休憩する。第二展望台まで来ると、

ガスはなくなったが時折水滴が飛んでくる。休まず歩き続け、スギの大木やヒメシャラの大木の間を縫うように進むと「新高塚小屋まで50m」の標識があり、新高塚小屋に到着した。早速小屋の中に入り、場所を確保する。小屋はすいていたが、柱と柱の間の1スパンを一人づつ占拠しているので、奥の2スパンしか空いてない。一番奥の1スパンに決め、マットと寝袋を広げ濡れたレインェア一等を干した。水を汲んで夕食の準備に取り掛かる。今夜のメニューは、スキヤキとポテトサラダ、白菜の漬物と豪華な夕食。前日光和牛のスキヤキに生卵を付け贅沢な御馳走に、二人は「山でこんなに美味しいものが食べられ幸せ。」と喜んでいた。我輩もスキヤキを肴に、持参した三岳で至福のひと時。後片付けをして明日の準備をし、早立ちに備えて6時には就寝した。

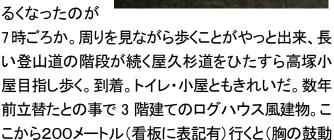
11月14日(金) 新高塚小屋から縄文杉・ウイルソン株を経て、白谷雲水峡へ

新高塚小屋 6:00~高塚小屋 7:05/7:15~縄文杉 7:30/7:50~ウィルソン株 8:40/9:00~大株歩道入口 9:30/9:40~楠川分れ 10:35~辻峠 11:35/12:00~太鼓岩 12:15/12:25~白谷山荘 13:15~白谷雲水峡 P14:10=杉の里 15:00=大川の滝 15:50/16:10=尾之間温泉 16:30/17:10=杉の里 17:30

.縄文杉に出会えること・・・私の数年来心に秘めた思い。ヘッドランプをつけ上下レインウェアーの出で立ちで霧の深い新高塚小屋を5時30分出発。足元に注意しながら一歩一歩緩やかなアップダウンを繰り返しながら高塚小屋へと向かう。6 時過



ぎてもなかな か明るくならな い。 やっと薄明 るくなったのが

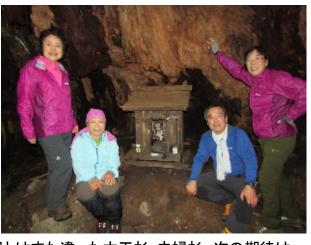


を抑え)一番の目的である縄文杉へ。ワーやっと願いが叶った縄文杉だ。・・・・樹齢7000年?とも言われ今まさにこの時を経てここに聳え立つ荘厳かつ神秘的な縄文杉。なんとも言えない感動だ。「やった一」です。ここまでお世話になり同行してくれた皆々様・サポートして頂いた山人会長S氏、

何から何までありがとうございます。感謝感謝です。あっちへ行ったりこっちへ行ったり、どこから見ても壮大かつ立派であるのだ。以前は正面から見ることが出来たのにとの事。現在は向かってやや左で見ることができる。ここでみんな一緒に記念撮影、感激の1枚となる。高鳴る鼓動を胸に秘め大王杉・夫婦杉へと向かう。整備された木



道を下



り先程とはまた違った大王杉・夫婦杉。次の期待はウィルソン株。ある位置でハート型に見える位置、2つもあるとか。一生懸命探している女性が見つけました。直ぐ下に小川が流れるその位置だ。どれどれ私も見ました、ハートだ。ホホーなるほどです。何か良いことあるかナ? Iさん 頭を岩?にぶっつけましたよ、イタタター。スマホで無我夢中?一生懸命写

している。ここでも1コマ、記念撮影。ありがとうございます。大忙しですね。我々(I さんと私)はのん



きにここでもあっちこっちと物珍しさの余り動き回っている。出発の合図でレッツラゴー、トロッコ道へ。この道は、 昔屋久杉を切り出した際に使ったレールだそうな。枕木 にレールが引いてありその中央を我々が歩いている。 アッ屋久鹿現る。本土の鹿より小ぶりで色が少々ウスイ。 かわいいです。屋久鹿を見ながら歩みを進める。楠川 分岐を左に折れ少々小ぶりな屋久杉林をどんどん歩き

辻峠到着。木のベンチが 4~5 ケ有。そこはクラブツーリズムの団体さんでいっぱいでした。その中の男性ガイド曰く、『視界がパッと開け、人生観が変わるよ』との言葉に釣られ太鼓岩へ。急な登りではあるが距離は短い。いきなり視界がパッと開けた。太鼓岩に登ると本当だった。見える見える昨日登頂した宮之浦岳、・・・・・。ある女性が太鼓岩の云われを聞いていました。丸い





中央付近の割れ目を上からトントン叩くと太鼓の音がするそうです。な一るほど、ほんとうです。太鼓の音がしました。我々も実際に試しました。ほんとうですよ。下りは下り専用と表記してある方より下り、先程のベンチで昼食となりました。ロールサンド。中央をカットしチューブのバターを塗り生で食することの出来る白菜とハムをサンド。残りの白菜は私が全部ボリボリ頂きました。これが美味しかっ



た。ほんとうに美味 しかったです。昼食 後整備された木を をまたどんどん歩く つり橋を過ぎるとそ こはもう白谷雲水 峡。累計何時間の 道程だったろう か?私の左ふくら



はぎがパンパンになってしまっている。こんなことはなかなかない事です。サポートのSさんが下ったところの駐車場までお迎えに来てくれていた。「ありがとうございます、感動です」とてもとても有難がたいです。早々車に乗り杉の里で着替えやシ

ャンプーを持って、大川の滝を見学し尾之間温泉へと。この温泉は足湯あり、湯音が高いが肌がつ



るつるになり、ふくらはぎのパンパンも和らぎ、この 温泉を見つけてくれてありがとうです。I さんはあまり の湯の暑さに足湯に行きましたが、時間で湯を抜い た後であったとか。残念そうに云っていました。

最後にこの計画を練ってくれたリーダーのSさん、航空券・フェリー・レンタカーの手配、食事までの準備をしてくれたOさん、ともに歩いたIさん、サポートをしてくれたSさん、何から何までお世話になりありがとうございます。念願が叶い屋久杉に出会えること

ができ、「この感激感動をありがとう」です。感謝、感謝です。これからもいろいろお世話になりますが宜しくお願い致します。 K・S記

11月15日(土) 宮之浦港から鹿児島へ戻り、レンタカーで池田湖、長崎鼻を観光し指宿へ

杉の里 8:15=志戸子がシュマル公園 9:00/9:20=お土産 センター 9:30/9:50=宮之浦港 10:00/10:45+++鹿児島港 12:35=ニッポンレンタカー13:10/14:00=池田湖 15:00 =長崎鼻 15:30/16:00=休暇村「指宿」16:50

朝5時過ぎに起き、ふくらはぎの痛みに2日かけて登った宮之浦岳の感動が蘇ります。

今日は鹿児島に戻る移動日で、のんびり観光



の 予 定 です。

洗濯機や洗濯物を干す場所があり、昨夜干し朝汚れた衣服をきれいに片づけられた。

民宿の方々の心のこもった朝食をゆっくりいただき鹿児島に向かっての準備をしました。今朝の朝食は、宿の御主人が腕によりをかけて作ってくれ、格別に美味しく戴きました。

お世話になった民宿の方々にお別れをして、ガ

ジュマルを見に公園に向かいました。

志戸子ガジュマル公園は、ガジュマルを中心に 亜熱帯植物が自然のまま見ることが出来、まる でジャングルを歩いているような気分になりまし た。

幹から気根が無数に垂れ下がり徐々に伸びて 地に着き支柱になるそうです。

見事な大樹に驚きながらジャングルの散策を楽 しみ、記念写真を撮りました。







そこから宮之浦に移動し、おもいおもいに家族や知人たちにお土産を買い高速船"トッピー"に乗りました。申し分ない快晴に来る時は見られなかった、種子島・硫黄島・開聞岳や、今も噴煙をあげている桜島がくっきりと見えました。

下船後レンタカーを借り、レンタカーのお姉さんに教えてもらった行列のできるお店で、お昼の 黒豚カツ定食をいただき、フェニックスの街路路

を眺めながら、"イッシー"が住むと一時騒がれた池田湖に行きました。幻の怪獣「イッシー」の石像と一緒に写真を撮りました。そこから長崎鼻に向かい、白い灯台から眺めると青い海の上に、明日登る予定の開聞岳(薩摩富士)が見事な容姿を聳えさせて歓迎をしてくれている。

今晩の宿「休暇村 指宿」へ向かい、有名な砂風呂を体験しまた。





ここだけの話「パスタノーゲン」を塗った人はヒリヒリして痛いと悲鳴をあげていました。

時間は 15 分位でしたが、中々気持ちのいいものでまた機会があったら砂風呂に入りたいものです。

夕食は黒豚しゃぶしゃぶコースにバイキングも付き、乾杯をした後ご馳走を食べ過ぎ身動きが出来ないくらい食べて一日が終わりました。

T·O記

11月16日(日) 開聞岳に登り鹿児島空港から羽田空港へ戻り帰宅する

休暇村「指宿」5:30=ふれあい公園 6:00/6:20~二合 目登山口 6:45~五合目 7:30~七合目 8:00~ 開聞岳 9:10/9:30~七合目 10:10~二合目登山口 11:25=ふれあい公園 11:30/11:45=鹿児島空港 13:30/15:20+++羽田空港 17:10=羽田パーキング 17:30=野木町島田宅 19:00

朝、5時半出発。観光組の島兄に開聞岳の近くの ふれあい公園に送ってもらう。そこで朝食のパン にお茶が配られたので、それを食べてから体操と トイレを済ませ6時45分に2合目より登山開始



した。昨日、高速船や鹿児島の道路を走りながら見た開聞岳。薩摩富士と呼ばれる開聞岳は924



が崩れるんじゃないかとけけしながらさっさと 通りすぎた。そんな所が何ヵ所もあった。しか も、足元は小砂利で滑りやすいので気を付けて 歩いた。3合目で衣服調整、良いペースで5合 目まで到着。ここは展望台になっていて、イッ シー湖と長崎鼻と鹿児島湾が見えて、山頂から

に歩く。天候は雲りで、朝も早いのでまだ薄暗いけど、ヘッドライトはもう要らなかった。風もなく穏やかで、寒くもない。少し登っていくと、登山道は、かなり深い溝になっていた。 2メートル以上もあるように思う。壁の土は黒くて柔らかい感じで上に生

えて いる 大木 っさと しか けけて で5合 イッ

の景色を期待した。甘いミカンをいただいてから出発した。ここから岩場や短い階段が出てきたが、高度が稼げる。8合目からはロープや、長いハシゴ場などもあり面白い。9合目に温度計が有り7℃。あと400メートルで頂。足元が少し湿っている岩場だから、気を抜かず登る。



そして、9時10分。頂上についた!絶景展望360度!風強く寒い。曇りだから遠くは霞んでいるが、薄墨色の硫黄島や霧島連山と桜島などが素敵な感じ。近くは田畑や町や湾の曲線やらがハッキリと見えて、コントラストが綺麗。山頂にいた登山者に記念写真を撮ってもらう。カステラと温かいお茶を飲みながら絶景を堪能した。下山は同じ道を下り、さっき歩いてきた道なので、登ってくる登山者に情報提供と挨拶しながらスルスルと降りた。登山口で迎

えの島兄がニコニコしながら待っていた。送迎ありがとうございます。

下山後、ふれあい公園で荷造りをし鹿児島空港へ向かった。空港で昼食を食べ、思い思いにお 土産を買い羽田空港へ帰着した。渋滞もなくスムーズに高速道を走り、予定よりも早く島兄宅 へ着き、楽しかった4日間の山旅が終わりました。 M・I記



